

# 遊佐久男、県に問う！

平成26年6月の福島県議会定例会にて遊佐久男議員が一般質問に立ち、原子力災害からの復旧復興、農林業の再生、教育行政について5項目にわたり県の考えを問いました。

## ◎知事に問う！

**遊佐久男議員**：知事は、避難者意向調査の結果をどのように受け止め、避難者への支援にどのように取り組んでいくのか？

**佐藤知事**：避難者意向調査は全避難者を対象に実施し、半数近くの世帯が離れ離れに避難している状況や、多くの世帯が心身の健康や将来の生活に不安を感じているなど、改めて厳しい実態にあると受け止めている。このため、ふくしまの今の情報提供に加え、県外避難者の復興公営住宅モデルルームの見学ツアーの実施、巡回就職相談や派遣教員等による教育相談、さらには戸別訪問の実施などを通じて、“ふるさと”のきずなを保ち、避難者の意向を踏まえた取組を積極的に進め、避難長期化による新たな課題への対応を進め、一日も早く帰還や生活再建が実現できるよう取り組んでいく。

## ◎避難者支援について

**遊佐久男議員**：避難者意向調査の結果を踏まえ、県内市町村や受入都道府県との連携について県の考えは？

**原子力損害対策担当理事**：今般の避難者意向調査で情報や課題が明らかになったため、今後は県内市町村や受入都道府県との連携を強化し、戸別訪問や合同の相談会の開催等、きめ細かな支援に取り組んでいく。

**遊佐久男議員**：継続して避難者意向調査を行う必要があるのではないのか？

**原子力損害対策担当理事**：避難者支援を行っていく上で(避難者意向調査は)極めて重要である。復興公営住宅の整備状況や住宅確保に関わる損害の賠償の進捗など、避難者を取り巻く環境が変化していくことから、調査内容や調査時期を検討し、継続していく。



▲6月24日の福島県議会定例会にて行われた一般質問に立つ遊佐議員

## ◎農林業の復興施策について

**遊佐久男議員**：平成25年度産米の流通状況、販売促進の取り組み状況は？

**農林水産部長**：全国的な消費量減少や供給過剰に加え、風評の影響により、取引価格が低下し、全国平均に比べて販売が進まないなど厳しい現状にある。関係機関、団体との連携を図りながら、トップセールスやメディアを活用したPR、卸売業者や外食事業者等との商談会及び産地ツアーの開催等を通じて、県産米の安全性と優れた品質を積極的にアピールし、販売促進に努める。

**遊佐久男議員**：今年の飼料用米の作付状況と今後の支援については？

**農林水産部長**：今年は昨年約500haから1.6倍程度の作付面積に拡大するものと見込んでいる。今後は農業者の意向を把握しながら、飼料用米の生産を支援する。

**遊佐久男議員**：原木しいたけ生産の回復に向けた取り組みと県内産しいたけ用原木確保状況は？

**農林水産部長**：「福島県安心きのこ栽培マニュアル」により、出荷制限の制限解除に向けた栽培指導を行っている。しいたけ用原木の確保については、県内産の安全な原木の供給促進に積極的に取り組んでいく。

## ◎教育行政について

**遊佐久男議員**：県教育委員会は被災した児童生徒の心のケアにどのように取り組んでいるのか？

**教育長**：学校と家庭、地域、関係機関が連携して教育相談体制の充実を図るとともに、スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカーを増員して配置している。

## 後沢川砂防堰堤整備箇所の調査



【被災状況】  
・人家1戸 一部崩壊  
・国道459号冠水埋塞(全面通行止 8/5-8/9)

## ◎市町村が行う除染作業について

**遊佐久男議員**：市町村間における除染方法等の情報共有について、県の取り組みは？

**生活環境部長**：市町村間における情報共有については、意見交換会等を通じて先進的事例等について、情報共有を図り、市町村除染の推進に努めている。

**遊佐久男議員**：県は、除染技術の実証にどのように取り組んでいくのか？

**生活環境部長**：これまでに45個の技術について検証を行い、5個の技術が除染関係ガイドラインに取り入れられ、7個の技術が個別協議により市町村の除染において採用されている。今後は採用技術の更なる普及と新たな除染技術や除染手法の効果検証を県が実施する市町村除染技術支援事業などを通じて、より実用的・効率的な除染技術の一層の普及に努める。

## ◎県民健康調査について

**遊佐久男議員**：甲状腺検査の体制の強化をどのように図っているのか？

**保健福祉部長**：県立医科大学による小中学校や公共施設での巡回検査に加え、二巡目に入った今年度からは県内すべての高等学校においても検査を実施することとしている。また、検査機関については県内8医療機関、県外では87医療機関の協力を得て受信できる体制を整備したところである。

**遊佐久男議員**：ホールボディカウンター検査の結果を踏まえ、県は県民の不安解消にどのようにつなげていくのか？

**保健福祉部長**：これまで健康に影響が及ぶ数値は確認されていない。今後も検査の内容や結果を丁寧に説明し県民の様々な疑問に答えていく。

## 平成26年度6月定例会土木調査委員会現地調査

昨年8月5日の豪雨により被災した西新殿地内の『後沢川』に砂防堰堤が整備されます。上流部には、約2400㎡の不安定土砂が残っているため、土木関係予算により土石流や流木対策として整備されます。また、森林は農林関係予算で復旧される予定となっており、幅約40m高さ14m、140㎡のコンクリート造の予定です。工事は今年度内に施工される見込みです。